

## 注意点1



### ネオクラの常套句 ペダル奏法を覚えよう

このフレーズで使われているペダル奏法の言葉の由来は、オルガンの足鍵盤=ペダルから来ているようだ。クラシックには、ベース音を持続させた状態で上のハーモニーを展開させたり、逆に高音を一定に保ちながら下のハーモニーを展開させたりする作曲方法があり、これを利用して、ある音をペダル音に残しながらフレーズを展開していく奏法をペダル奏法と言うようになったのだろう。図1-aは低音にペダル音を取った場合で、最後まで2弦12フレットを拍のウラで鳴らしている。この逆に図1-bでは、高音にペダル音を置いて、1弦12フレットを中心にフレーズを構築しているのだ。ペダル奏法には独特のポジションがあるので、慣れるまで何度も運指を練習しよう。

図1-a 低音にペダル音を置いたパターン

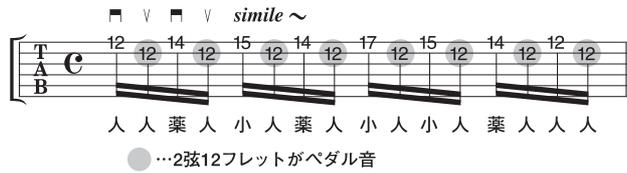


図1-b 高音にペダル音を置いたパターン

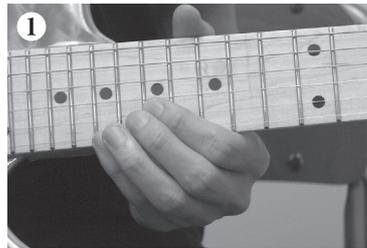


## 注意点2



### ペダル音を押さえる 指は一定にすること!

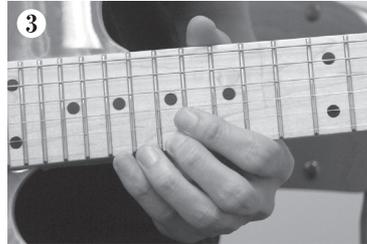
このフレーズでは、1 & 3 小節目は中指で押さえる2弦13フレット(C音)を、2小節目は1 & 2 拍目が薬指で押さえる1弦20フレット(C音)を、3 & 4 拍目が小指で押さえる1弦19フレット(B音)をペダル音として演奏していく。ペダル奏法では、ペダル音を同じ指で何度も押さえないといけないので、その指の押弦がズレないように注意しながら演奏することが大切だ。写真は2小節目3拍目だが、小指による1弦19フレットのペダル音を中心に、2弦17フレット(人差指)や1弦17フレット(中指)を押さえよう。4小節目は、デミニッシュのコード・トーンを5連符でエコノミー・ピッキングするが、1拍目と2拍目をダウンでうまくつなげるように心がけること。



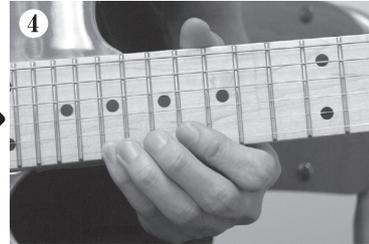
2弦17fを人差指で押弦。小指は1弦19fの押弦準備を!



1弦19fを小指で押弦。これがペダル音だ。



1弦17fを中指で押弦。次の小指の押弦を忘れずに。



再度ペダル音である1弦19fを小指で押弦。

~コラム44~

## 地獄の戯れ言

ここでは、ネオクラシカル系(様式美系)の名盤を紹介しよう。1つ目はイングヴェイ・マルムスティーンの『トリロジー』。楽曲の質がとにかく高く、歌モノからインストまでバランスよく配合された内容で、数多くのイングヴェイ・フォロワーを生み出した名盤だ。2つ目はトニー・マカパインの『マキシマム・セキュリティ』。ネオクラシカル系のインスト作としては最高傑作と言える1枚だろう。最後は様式美系の元祖と言えるレインボーの『虹を翔ける覇者』。リッチー・ブラックモアなくしてイングヴェイはなかったとも言えるので、まさにネオクラシカル系のルーツと言える重要な作品だ。

### プロに学べ!

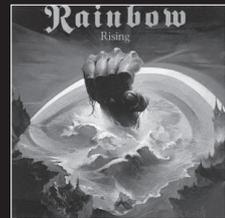
### ネオクラシカル名盤紹介



イングヴェイ・マルムスティーン  
『トリロジー』



トニー・マカパイン  
『マキシマム・セキュリティ』



レインボー  
『虹を翔ける覇者』